

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 3 月 日

事業所名 帯広あおぞら

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏 まえた改善内容又は改善 目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	0		
	②	職員の配置数は適切である	11	0	0		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	0	6	子どもに机上課題や大型遊具等様々な経験の中で、ボードや写真等を使いわかりやすく活動の部屋を伝える工夫をしています。	静の活動と動の活動の部屋を分けて子どもに危険が無いように設定する等、気をつけています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	4	収納場所の工夫、時間と人の調整をし、マットやおもちゃの洗浄をする等清潔を保っていく	誰が見ても大丈夫なより清潔で、心地よく過ごせる環境を職員全員で意識し、整えていきます。
業務 改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	4	職員全体で伝え合い改善すべきことを確認していきます。	職員が気付いた点を共有し、振り返り、改善していく事を大事に取り組みます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	0	0		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所のおたよりやホームページ等で公開	11	0	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	11	0	外部評価はまだ受けていません	外部評価を検討していきます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	0	zoom研修を受講、また、ロールプレイ等で支援の振り返りをし、職員で共有しています。	

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	9	0	2		アセスメントのチェック項目や、ポイントを職員が共通に確認し合い、子どもの状態や保護者のニーズにあった丁寧な個別支援計画を作成できるようにしていきます。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	2		今後も継続していきます。
	⑫	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0	2		個別支援計画の立て方について、今後も職員間で勉強していきます。
	⑬	個別支援計画に沿った支援が行われている	11	0	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	2		クラスの枠を外し、職員が協力し合って子どもたちのためのプログラムの立案も行っていきます。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	1		今後も固定化しないように子どもの状態に合わせて工夫していきます。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している	9	1	1		今後も気持ちの変化、成長に合わせて工夫しながら作成していきます。
	⑰	支援開始前には、その日行われる支援の内容や役割分担について、職員間で確認している	8	0	3		確認の時間や方法などを工夫し改善していきます。
	⑱	支援終了後には、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を職員間で共有している	9	0	2		短時間でも振り返りができるように意識合っていきます。

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	2		支援の検証・改善に繋げていけるように、記録の取り方を工夫していきます。
	⑲	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	6	1	4		日常モニタリングを意識しながら子どもの様子を見て見直しをしていく必要性を再確認しています。
関係機関や保護者との連	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	0	0		
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	1	1		今後も必要に応じて、連携した支援を行っていきます。
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	0	9		今は対象のお子さんはいませんが、担当児のリハビリなどの見学等、必要に応じて連絡を取り合っていきます。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	0	9		今は対象のお子さんはいませんが、医療的ケアが必要な子がいる場合、保護者を通して連絡を取り合っていきます。
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	0	9		特別支援学校や事業所など今後相互理解を図っていきます。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	0		
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	0	0		
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	11	0	0	コロナ禍でも、できる交流の形を模索して交流してきました。	今後も、その時にできる交流の仕方を考え、つばさ保育所との交流を進めていきます。

携	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	0	0		
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	2	療育の見学をビデオ上映会に変更したり、家庭訪問を面談や懇談会など密にならないように行ってきました。	コロナ禍で行事や懇親会など思うようにできませんでしたが、満足のいく支援を行っているようにしていきます。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を行っている	1	6	4	保護者の思いに少しでも寄り添えるように、ロールプレイなどで模擬体験し、振り返りなどを行ってきました。	今後も、保護者との伝え合いや家族支援プログラムの導入をしていけるような研修等取り組んでいきます。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	0	0		
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	11	0	0		
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	3		保護者との悩みの相談に適切に応じ、必要な助言と支援をしていけるように保護者との伝え合いを丁寧に行っていきます。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	0	0	コロナ禍でできることを工夫し紙上おしゃべり会などの支援をしてきました。	父母会の活動等は開催がなかなか難しかったのですが、保護者同士が繋がれる工夫を大切にしていきます。(親子写真等)
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	1		今後も継続して行っていきます。

非常時等の対応	③⑦	定期的におたより等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	0	LINEによる連絡が定着してきています。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	11	0	0		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	2		今後も継続して子どもや保護者の思いを伝えてもらえるように適切に対応していきます。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	0	9		コロナ禍で地域との交流はできませんでした。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	2		改めてマニュアルに関して職員間で確認していきます。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	0		
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	0	1		てんかん発作を起こしたことのある子の情報を確認しています。
④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0	0			
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0	0			
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	0			
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	11	0	0			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所で子どもの担当者が行った自己評価です。

*コロナ禍で規模縮小や中止することも多かったのですが、「できないではなく、どうやったらできるか」を考えたとき見つけられた事もたくさんありました。取り組み方が変わったことで、ゆったりと子どもに合わせた関わりができ、良かったことや変化も見つけられました。リモート研修になったことで、出かけなくても良くなり、多くの研修にも参加することもできました。次年度も「どうやったらできるのか」工夫しながら、より良い支援ができるように子どもや保護者にとって必要な支援を、職員皆で考えて進めていきます。